

木場満行寺への学童疎開(四)

物資欠乏にもかかわらず木場の婦人会は寒い冬にと疎開児童にくず布団を贈る

◆疎開児童と木場の子供たち
疎開児童の中には、田舎の子供たちがあまり見たこともない講談社などの良い絵本を持っていくものがあった。当時、五年生の五十嵐芳男さんは、寺の友達から「童話」や「少年漂流記」「猫七先生」などの本を借りて読んでいた。また、同じ五年の疎開児童たちは放課後、よく五十嵐芳男さんの家へ行き、家のまわりで遊んだ。

◆夕食とその後の子供たち
子供たちの喜ぶ夕食の御馳走は、土曜日のカレーライスだった。

◆夕食後の子供たちの暮らし
夕食後はよくわからないが、六年生の進学希望の子供数人には、柴田寮長が厳しい補習教育(二〜三時間)を施したという。

◆満行寺には自噴ガスが非常に豊富に出ていた。寺

の台所と子供たちの使用する座敷の二か所に、そのガスを使ったガス台が設けられていた。座敷のガス台には、一メートル数十センチくらいもある真四角の大きな金網のカゴを作って、そこに子供たちの洗濯物をかけて乾かしていた。

干し物のあまりない寒い冬の夜、夕食後の一時を子供たちはよくそのガス火のまわりで並んで、暖を取った。



満行寺の台所でガスの火にあたる疎開児童たち(右から5人目の一番、背の高い人が柴田寮長)。左手前に大きな釜が見える。子供たちのご飯はこれで炊いた。(昭和19年暮れごろ撮影)

が行方不明になったのである。寮長、住職、寮母ら全員が青くなって行方を捜した。木場の人たちが手分けして、木場から大野まで捜した。

◆物資不足からはだして登校不足のため、地元の子供たちの中には運動靴を持たない子供がはだして登校するようになった。満行寺の子供たちの中にも、履物がいたんで、はだして登校する者が出始めた。しかし、田舎の子供と違ってはだしに慣れぬ都会の子は、砂利道を歩くことが苦痛だった。が、そのうちによい方法を覚えた。

それは地元の子供たちを真似て、馬車の通ったあとに落ちてくる馬糞の上を歩くことだった。まさに生活の知恵で、これは五十嵐さんが中島さんから聞いた話という。

◆寮母も炊事係も泊り込み
三人の寮母(東京から来た黒沢さん、地元の島津さんと前田さん)だけでは、とても六十数人の子供たちの世話をしきれない。それで、炊事係の富井キヨミさんと三人も寺に泊って、文字通りさび

して、子供たちの世話に当たることになった。夜になると、子供たちの中には、東京の父母のことを思い出してかふとんの中で泣いている子や、毎日のようにおねしょをするために夜中に時間を計って小便に起こしてやらなければならぬ子もいた。また、冬に入ると、霜やけや雪やけになる子が多くなり、朝晩、湯をわかつて手や足をたててやっていたという。

◆風呂としらみと
風呂は、初め五、六人ずつ近所のガス燃料の家へもらい風呂にいった。しかし、物資不足で石鹸が手に入らず、寺の子供たちがしらみを置いていくということから、もらい風呂を断られてしまった。そこで、急襲、寺の勝手場の近くに小屋を作り、据え風呂を三個ほど置いて子供たちを入浴させることにした。

今では子供はもちろん、大人でもしらみを知らない人が多くなったが、当時は町の大半の家にしらみがたかり、親子でしらみの卵つぶしに熱中していた。

る時、掛け布団一枚、敷布団一枚の各一枚ずつを持ってきているだけだった。ところが昭和十九年から二十一年にかけての冬は大雪で、ことに寒さが厳しかった。

そこで、木場の婦人会では、同じ子供を持つ親として、親元を離れて生活している疎開児童たち一人一枚ずつくず布団を作ってやることになった。当時は、敗戦間近であらゆる物資が欠乏していた、衣料品や生地などは一人一か月何点という制限の下でわずしか買うことができなかったため、婦人会は木場全戸に回覧板を回し、どんな着物の切れ端でも寄付してほしいと呼びかけた。

こうして集められた端切れ生地を、婦人会の人たちは洗濯して縫いあわせ、くず布団のカバーを作った中に入れる薬くずは近所の農家から集めた。

婦人会では、ほかにも野菜や米や味噌などの食糧を疎開児童たちのために集めたりといった活動をした。

また、その他の人たちも疎開児童たちのためにさまざまなボランティア活動をして、援助をしたのである。次回では、そうした人たちの活動を紹介する予定である。

執筆・富田栄門

平成2年度一般会計予算など27議案が審議可決——議員定数削減案は否定

議会三月定例会が、三月九日(金)から二十六日(月)まで開かれ、平成二年度一般会計予算など二十七議案が審議され、

原案どおり可決されました。議員提案の議員定数削減案は否決されました。

議案の主なものは、平成二年度の一般会計、国民健康保険・老人保健特別会計、ガス・水道事業会計の各予算、特別職の給与引き上げ、土曜閉庁のための条例改正、ねたきり老人等介護手当支給条例の制定などです。

健康づくり講演会が開かれる

保健委員や自治会、婦人会などが中心になって、成人病予防のため、各地区ごとに健康づくりのための講演会・料理実習などが毎年、行われています。



「私の健康法」について話しました。(保健衛生課)

一般質問は、二十二日(木)に行われ、七人の議員が、交通安全対策、老人福祉センター建設などの福祉問題、土地利用、環境美化などについて町



短 信

- 2月15日 ~ 3月15日
- ▶2月15日 観光物産センター対策特別委員会(議会)
 - ▶16日 観光物産センターふるさとアピール館安全祈願祭(現地)
 - ▶19日 納税相談会(3月 日まで、役場議場、板井・黒鳥・木場の各公民館)
 - ▶21日 新潟市合併に関する意識調査検討委員会(改善センター)
 - ▶23日 県央施設組合会議(弥彦村)入札(総務課)
 - ▶26日 日報政経懇談会(新潟市)
 - ▶27日 議会運営委員会、正副常任委員長会議(議会)
 - ▶28日 郡町村会、県町村会、新潟地区広域清掃事務組合定例会(新潟市)
 - ▶3月1日 黒崎高校卒業式、3月定例課長会議(改善センター)、「黒鳥兵衛」運営委員会(商工会)
 - ▶2日 電車路線再編計画市町村長会議(燕市役所)
 - ▶4日 第13回柔道連盟定期総会(総合体育館)
 - ▶5日 入札(総務課)
 - ▶9日 議会三月定例会(26日まで、12日 総務文教委員会、13日産業建設委員会、15日 厚生企業委員会、16・19日 一般会計予算審査特別委員会、22日一般質問、23日 観光物産センター対策特別委員会、26日 最終日)
 - ▶10日 信濃川漁協放流祭(組合ふ化場)
 - ▶14日 黒崎中学校卒業式、入札(総務課)

新潟市合併に関する意識調査検討委員会——第2回開かれるが、結論出さず

新潟市との合併についての住民アンケートの実施方法・内容を検討する「新潟市合併に関する意識調査検討委員会」が、二月二十一日(木)、農村環境改善センターで開かれました。

この委員会は、町長を委員長に、学識経験者、自治会代表、公共的団体の役員、町議会議員など二十人の委員で構成されています。(委員の

予算、老人保健特別会計予算、ガス・水道事業会計予算については、今月号の二ページから七ページまでお知らせします。その他の議案、一般質問などについては五月号の広報でお知らせする予定です。

内容、委員の構成については、広報くろさきの昨年七月号をご覧ください)

今回の委員会では、委員から「アンケートは時期尚早」など慎重論が出され、結論は出ないまま、三回目の会議開催も含め、アンケートの進め方は委員長である町長に一任されました。

(企画開発課)

年金の広報が協会長賞を受賞

第十三回国民年金市町村広報コンクール(主催・新潟県新潟県国民年金協会)で、黒崎町が総合部門で国民年金協会長賞を受賞しました。県内一〇九市町村から応募があり、



町政の動きを知らせます。

工 事 名	工 事 業 者	請 負 額	入 札 日	完 成 期 限
道路安全施設区画線設置工事	交 通 企 画 画 業 所 新 潟 開 発 技 術 有 限 公 司	1,359,600円	2月23日	平成2年3月28日
町道山田22号線、23号線用地測量委託工事	(株)コトニ	2,626,500	3月5日	平成2年4月28日
黒崎町立山田小学校グラウンド施設整備工事	(株)志賀組	8,858,000	3月5日	平成2年3月30日
町道黒鳥北場線補修(オーバーレイ)工事	福 田 道 路 業 有 限 公 司	1,854,000	3月14日	平成2年3月30日
町道木場川前線(第二工区)舗装工事	(株)加賀田組	2,884,000	3月14日	平成2年3月30日

入札結果

総務課